

大震災への思い語る

信大 留学生 松本秀峰中生と交流



留学生たちと交流する生徒たち＝松本市の松本秀峰中等教育学校で

る。できることを一緒に頑張ろう」とエールを送った。

ランブクピティアさんは母国の新聞報道を紹介し、津波や原発事故への関心の高さを示した。地震がないスリランカでは、災害時の対策や避難体制の整備が不十分といい「日本の経験から学び、自然と一緒に暮らす方法を考えないといけない」と話した。

中学一年にあたる一年生八十四人が聴講。講演後は自由に意見交換し、日本の復興を願う二人の思いに触れた。

藤森洸君（こ）は「震災に対する海外の受け止めがよく分かった。応援は心強く感じた」と感想を話した。

(安藤孝憲)

信州大（松本市）で学ぶ外国人留学生二人が四日、同市の中高一貫校・松本秀峰中等教育学校を訪れ、外国人の立場から、東日本大震災で考えさせられたことなどを生徒たちに語った。

中国出身の劉一凡さん（こ）とスリランカ出身のランブクピティア・ディヌーシャさん

震災発生時に東京にいたという劉さんは「電車や公衆電話の順番を待つ日本人の秩序と冷静さに驚いた」と振り返り、「中国でも政府や民間が積極的な支援に乗り出してい